

今福線研究分科会現地踏査

木村 賢一

1. はじめに

広浜鉄道今福線は、昨年度の「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウムの開催」をきっかけに、「しまね景観賞；奨励賞」の受賞、モニターツアーの開催などにより、より一層盛り上がった年となりました。

今福線研究分科会 7年目となる今年度は、土木的見地から付加価値を加えていくため、土木遺産である4連アーチ橋と今福第4トンネルの2箇所を実測し、図面作成を目的とする現地踏査及び、地元による新規施設の視察を行いました。

ここでは、現地踏査について詳述します。

2. 現地踏査概要

(1) 日時・場所

- ①平成 28 年 11 月 5 日：4 連アーチ橋と今福第 4 トンネル(土木遺産)
第 1 下府川橋梁～旧線
- ②平成 28 年 11 月 6 日：有福第 3 トンネル

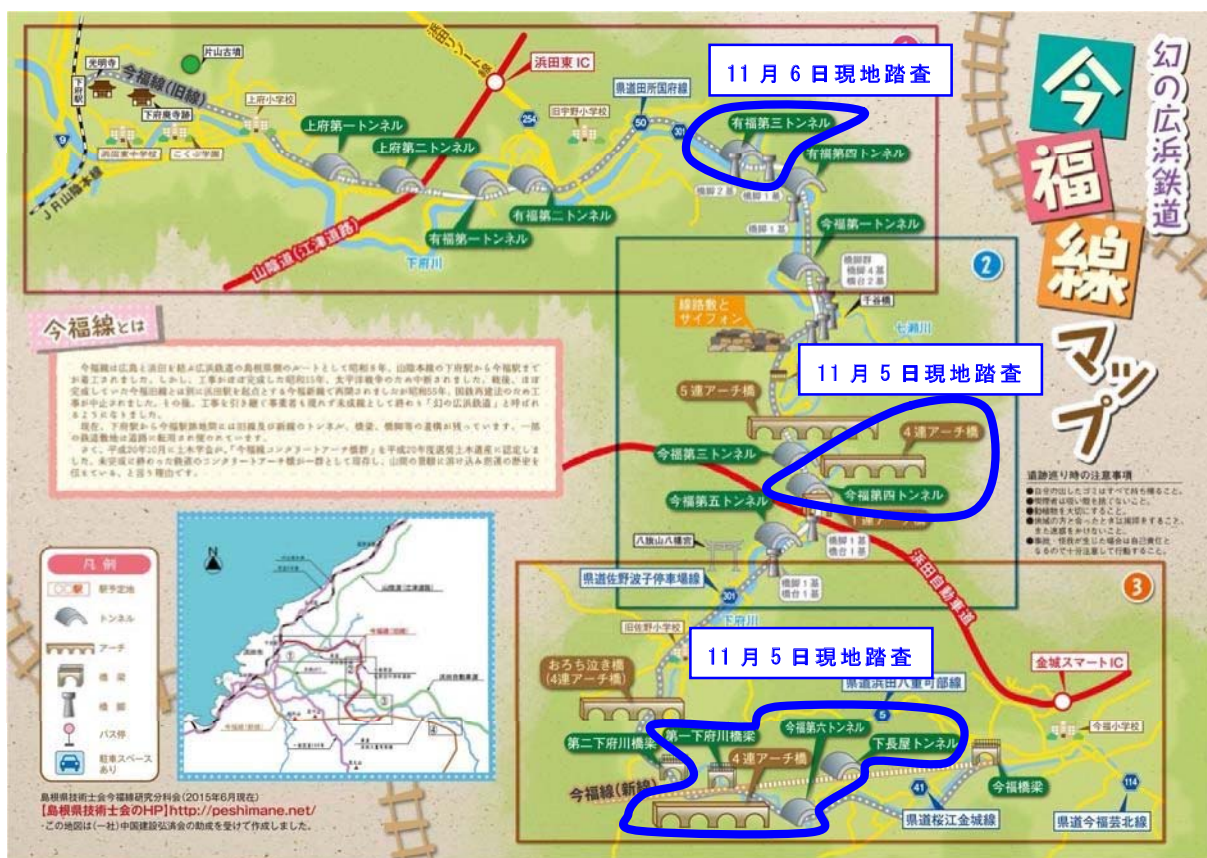


図.1 現地踏査場所

(2) 4連アーチ橋と今福第4トンネル

スタッフ、巻尺、コンベックス等による実測及び、シュミットハンマー、RCレーダーによる鉄筋調査を行いました。



写真.1 4連アーチ橋実測状況



写真.2 今福第4トンネル実測・シュミットハンマー調査状況

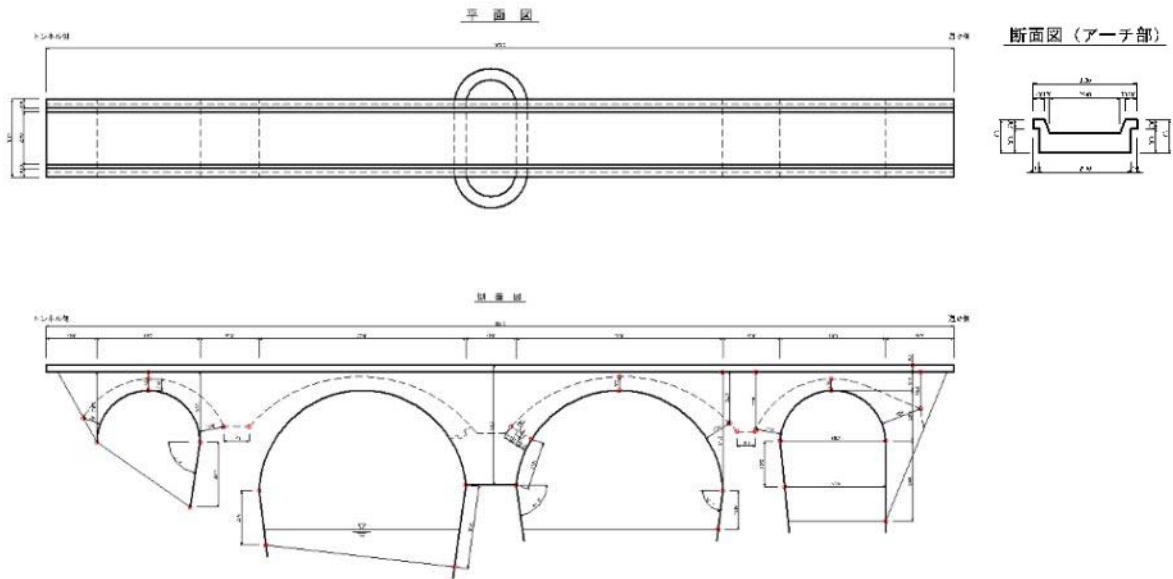


図.2 4連アーチ橋構造図

(3) 第1下府川橋梁～旧線

第1下府川橋梁～旧線区間については、これまで目視による現地踏査を行ってきましたが、改めて現地踏査を行いました。また、佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会による新規施設の視察を行いました。

① 休憩所・トイレ

来訪者のための休憩所とトイレが新設されていました。トイレは自然にやさしいバイオトイレです。地元の熱意・熱心さに感服しました。



写真.3 休憩所・トイレ



写真.4 トイレ内部



写真.5 バイオトイレ

② 来訪記念カード

今福線の見所でひとつである旧線と新線の分岐点(下長屋トンネルの手前)は、安全確保のため立ち入り禁止区間となっています。

有刺鉄線付きのフェンスが昨年度設置されており、来訪者をがっかりさせるものでした。

ところが、見学者記録簿と来訪記念カードが入った木箱が設置されていました。見学者記録簿に記入すれば、来訪記念カードを自由に持ち帰ることができます。見学者名簿には北海道からの来訪者がありました。

鉄道ファンの行動力と佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会の心遣いに頭が下がります。



写真.6 木箱

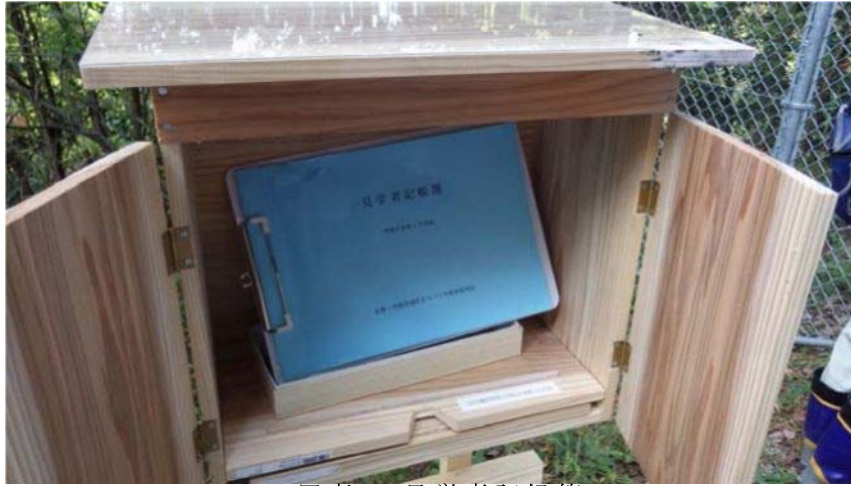


写真.7 見学者記録簿

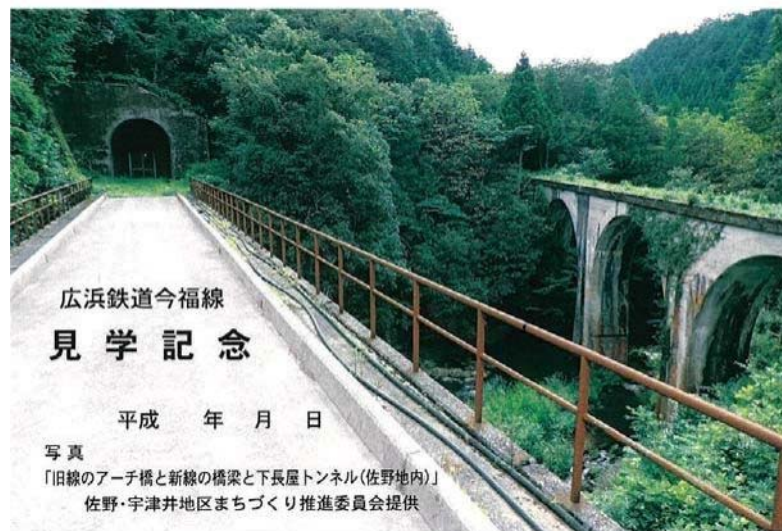


写真.8 来訪記念カード

(4) 有福第3トンネル

現地踏査2日目は、これまで現地踏査を行っていない有福第3トンネルについて、目視による現地踏査を行いました。



写真.9 有福第3トンネルから県道田所国府線を望む

3. おわりに

今福線は、「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」をきっかけとした情報発信及び、地元の熱意等によって、より一層盛り上がっています。

「2. 現地踏査」で紹介した佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会による休憩所、トイレ及び来訪記念カードの新設以外に、他地区も看板の設置や伐採等の維持管理に努めるなど、今回の現地踏査で地元の熱意と心遣いに感服しました。

今福線はコンクリートアーチ橋に手摺りが無い、既存手摺りの老朽化、ぬかるんで通行が困難な箇所があることにより、立ち入り禁止区間が多く存在します。また、周辺の道路は狭く駐車スペースがない箇所も多いことによって受け入れ体制が不十分です。

安全の確保及び、受け入れ態勢の充実が今後の課題です。

今福線研究分科会は今年度、土木の見地から付加価値を加えていくため、土木遺産である4連アーチ橋と今福第4トンネルについて実測による図面作成を行いました。

今後は、図面作成等による土木の見地からの付加価値を加える活動によって、今福線の地域資源としての活用、地域活性化に貢献したいと考えます。

－以上－